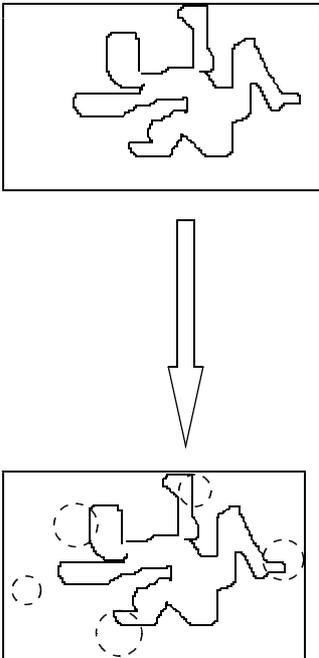


## 版画 ～私の実践

授業の大きな流れにあわせた木版画学習における指導上の準備の例を中心に記述しました

版画の種類	木版画	学校名	松江市立恵曇小学校		指導者	永井 孝夫
題 材 名	がんばれ！恵曇の漁業		学年	4年生	時 間	8時間
<p>題材のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木版画に表す表現方法に関心をもち、その表現を楽しもうとする。</li> <li>・社会科や総合的な学習の時間で調べたり、体験したりしたことをもとに表したいことを自分らしく発想する。</li> <li>・自分の発想に合わせて、構図を考え、彫刻刀の使い方を工夫して表現する。</li> <li>・作品を見たり、話し合ったりしながら、自分や友達の作品の表し方の違い、表現の意図や特徴などをとらえる。</li> </ul>						
版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純に木を彫る心地よさを味わうことができる。</li> <li>・様々な彫刻刀の特徴を生かして、多様な表現を工夫することができる。</li> <li>・彫ったところにはインクが付かず、彫っていないところにインクが付いて黒くなるという凸版の技法を理解し、身に付けることができる。</li> <li>・陰刻、陽刻について知り、工夫することができる。</li> <li>・インクや刷る方法を工夫することで、多色刷りも可能になる。</li> </ul>					
準備	<p>①版画用具の準備・購入          (鳥の子紙、インク：水性、ばれん、ローラー、インクパレット、霧吹き等)          (版木：B4版)</p> <p>②図工室の環境を整える          (○机やテーブル等を使用済み模造紙等で覆う、○カーテン等は結んで汚れないようにしておく、○インクパレット・ローラー・ばれん・インク等を数カ所にセッティングし、児童が自分で印刷ができるようにしておく、○試し刷り用の紙や本刷り用の紙を用意しておく、○刷った作品を置く場所や整理する場所をつくっておく、インクが付いた彫りカスを床に落とすことがないようにゴミ箱を工夫する等)</p> <p>③木版画の参考作品(陰刻・陽刻の表現、彫りの工夫がわかる作品等)を準備しておく(できれば、刷った参考作品とその版木を洗ったものを準備するとよい。)</p> <p>④社会科や総合的な学習の時間に行った学習の様子を写真やビデオ等に記録しておく。          (☆社会科や総合的な学習の時間に行った体験活動を版画表現につなげる取組)</p>					

授業の流れ

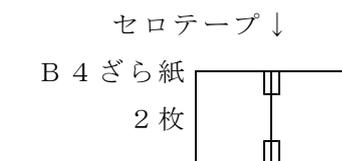
授業のながれ	ワンポイントアドバイス・裏技
<p>①自分にあったテーマ（題材・場面）を構想する</p> <p>②B4の模造紙又は上質紙に構図をデッサンする</p> <p>例</p> 	<p>○社会科や総合的な学習の時間に行った活動を思い出すことができるように、そのときの様子をビデオや写真で提示する。</p> <p>*左右対称ではなく、手足がアンバランスに曲がっているポーズを意図的に提示する。</p> <p>○木版画に初めて取り組むことを考え、版の大きさをB4版として、5年生・6年生でA3版に取り組むようにする。</p> <p>○時間的制約もあるので、ここでは詳細なスケッチではなく、画面全体の構図・人物のポーズがわかればよいことを説明し、短時間でのデッサンとする。細部の詳細なスケッチについては、③の段階で版に直接かくようにする。</p> <p>○必要に応じて、友達同士でポーズを観察できるようにする。</p> <p>*デッサンの際、画面全体を使用できるように、児童の意図を聞きながら、頭・手のひら・足の場所を大まかに画面上に○をかいて示す。</p> <p>*①での写真も参考にしながら、左右対称でなく、手足がアンバランスに曲がり、全体として固まりとしてとらえることができる構図になるように支援する。</p>
<p>③B4版の版木に、紙にデッサンした絵をもとに下絵をかく（鉛筆）</p>	<p>○人物のバランスとして、頭が大きくなり、手・足が小さくなりがちなので、頭を小さく、手のひら・足を大きく、腕・脚を長くということを意識するよう助言する。</p> <p>○必要に応じて、友達同士でポーズを観察できるようにする。特に肘、膝、指等の曲がる部分について注目するように助言する。</p>

④彫る場所や彫り方を考え、彫るところを白チョークでかく

⑤自分の構想に合わせて刀を選び、工夫して彫る

⑥試し刷りをして、彫りの修正を行う

⑦本刷りをする



1人がインクを練って版にローラーでインクを付けている間に、もう1人が紙を運ん

\*全体のバランスについては、児童の意図を聞いたり、紙のデッサンを見たりしながら、頭・手のひら・足の場所や大きさ（○で）を大まかに示す。（白チョーク）

○参考作品を用意して、解説するとともに、いつでも見て彫り方等を研究できるように掲示しておく。  
（陰刻・陽刻・刀による表現の違い等）

\*時間数が限られていることもあり、他の板での試し彫りや試し刷りはしない。

\*木版画に取り組む初年度ということを考え、彫りの巧緻性にはあまりこだわらない。

\*どうしても必要な修正箇所については、マジックで版木に示す。

○安全確保について指導する。  
（板の固定、手の位置等）

○刀とその特徴については、教師が演示したり、ビデオを見せたりする。

\*④の参考作品を掲示しておき、自分の彫りと参考作品での研究とを行きつ戻りつできるようにする。

○試し刷りについては、あまりインクの量が多くならないようにする。  
（インクの量が多いと、版がつぶれたり、練るのに時間がかかったりする。）

○試し刷りをしてインクを吸った版は本刷りの時にはつぶれてしまうことが多いので、試し刷りでわかりにくい部分は、より深く彫っておく必要があることを指導する。

○試し刷りには、B 4 ざら紙 2枚をセロテープでつないだものを使用する。

○インクを練る・紙を運ぶ・版に紙を置いてばれんで刷る役を2人1組で行うよう指示し、モデルの子どもによってわかりやすく演示する。

<p>で版に紙を置く。</p> <p>1人がばれんで刷っている間に、もう一人が追加のインクを練り、半分ずつ紙をあげてローラーで版にインクを付けて、はっきり刷ることができるようにする。</p>	<p>○インクは少量ずつ練り、半面ずつ繰り返して刷って、黒い部分は黒く白い部分は白くなるようにする。</p> <p>*インクは、ネチャネチャと音がして、手に小さな撥ねがとぶ程度まで練る。インクパレットを2つ使ったり、ローラーを2つ使うと早く練ることができる。</p>
<p>⑧ 作品として仕上げる</p>	<p>○作品のまわり3～5 mm程度を残して切るように示し、ハサミで自分で切る場を設ける。</p> <p>*作品展等に出品する作品は、教師で刷り、縁取りも教師が切って台紙にはる。</p>
<p>⑨ 作品の発表会（鑑賞会）をする</p>	<p>○工夫点努力点について発表の場を設け、相互の意見交流は付箋紙を用いて行う。</p> <p>*今後の参考作品として使用する作品は、版木も洗って作品とともに残しておくといよい。 (他の版木は作品とともに持ち帰らせる。)</p>

5 発展（こんなこともできるかな）

多色刷り

デザイン（カレンダーづくり・総合的な学習の時間発表会パンフレット等）

6 取り組んだ先生から ひとことアドバイス

木版画は、場も汚れるし、時間もかかる。計画した時間内に完了するためには、環境の準備と円滑に実施できるような見通しが必要。

題材については、ふるさと教育とも関連を考え、その地域、その学校の特色ある活動、行事、産業等から児童が心を動かされ、版画の構図として成立しそうなものを日頃から考えておくとよい。